

髙取　誠隆 議員

中学校部活動の地域展開と持続可能な活動機会の確保について

問 子どもの潜在的なニーズを調査することだけならば、混乱を招かないのではないか

答 子どもたちに期待させるようなアンケートの実施は適切ではないと考えています

問 改革実行期間において、具体的なロードマップや到達目標を示す考えについて伺う。

答 教育指導部長

部活動改革は、すべての競技や活動を一律に地域展開するものではなく、それぞれの状況に応じて進める必要があります。指導者や受け皿、生徒の参加状況なども競技によって異なるため、現時点で具体的なロードマップや到達目標を設定することは難しいと考えています。

問 種目ごとに一定の見通しを持つことはできるのではないか。

答 教育指導部長

各学校の生徒の在籍状況により、部活動および拠点校部活動の存続等の見通しは立っています。当面は学校部活動を維持しつつ、地域連携、地域展開を状況に応じて進める考えです。

問 部活動の設置に見通しがあるのであれば、ロードマップは示せるのではないか。

答 教育指導部長

教育委員会として考えているロードマップは、地域展開をするうえでのものであり、部活動を継続するためのものとは認識していません。

問 子どもたちのニーズ調査の選択肢が、学校以外のクラブチームの選択肢はなく、選択肢にある学校に設置されている部の中から選んでいるという認識でよいか。

答 教育指導部長

この調査は、各学校の部活動が維持できるか、拠点校部活動を新たに設ける必要があるか、見直す必要があるかを検討するためのものです。今後、市内の地域クラブ活動の状況を把握し、子どもたちに提示したうえで、潜在的なニーズ調査を行い、協議会で議論したいと考えています。

問 市内の状況によってということはあるが、ないけどもやりたい部活動、やりたいスポーツはありますかなどの潜在的なニーズを聞いてもよいのではないか。

答 教育指導部長

アンケートでは子どもたちに混乱を招かないことが重要であり、実現可能でない調査ではなく、正しい情報を提供したうえで実施することが丁寧かつ慎重な取組であると考えています。

問 子どもの潜在的なニーズを調査することだけならば、混乱を招かないのではないか。

答 教育指導部長

子どもたちに期待させるようなアンケートの実施は適切ではないと考えています。